2026/11/16

＜金標準、ウォラーFRB 理事の 0.5%利上げ示唆からの下落・・＞




（出所：オアシス）

雇用統計で非農業部門就業者数がインフレ指標の消費者物価指数（CPI）が 16.5 万人増と改善し、インフレ指標の消費者物価指数（CPI）はコア前月比で 0.3%となるも、タカ派のウォラーFRB 理事が「コア CPI 上昇率が 0.3%以上になった場合は、0.5%の利上げが必要になる可能性もある」と示唆し、12 月の FOMC で 0.25%の利上げ確率が 91%となるも、前日までは 0%であった 0.5%の利上げ確率が 11%まで上昇し、バーキン・リッチモンド連銀総裁に始まり、ウォラーFRB 理事、ハマック・クリーブランド連銀総裁、ディリー・サンフランシスコ連銀総裁、コリンズ・ボストン連銀総裁など FRB 関係者はタカ派の発言を行うなど金利要因を受け NY 金が再度安値を試すなど 4000 ドルを割り込む動きを見せている。

特に金標準先物は、21500 円を目の前にして 4 日間高値が止まった事から 20194 円まで下値を試しており、再度 11 月 2 日の安値 20023 円を試す可能性を秘めている雰囲気である。ただオシレーターは切り上げており、再度売られ過ぎの動きに思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が切り下げるも、シグナルも切り上げている。RCI は短期の下落し、長期は切り上げている。また日足が指数平滑移動平均線のレンジから下げており、弱気の域の中でリバウンドの動きに注意が必要と思える。

2026/11/16

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 6,150,000 円（2026 年 11 月 16 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 85,360 円（2026 年 11 月 16 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-5540-8423 （受付時間：平日 8:30～17:30）
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp